

観光来訪者アンケート 調査結果

荒尾市地域公共交通活性化協議会

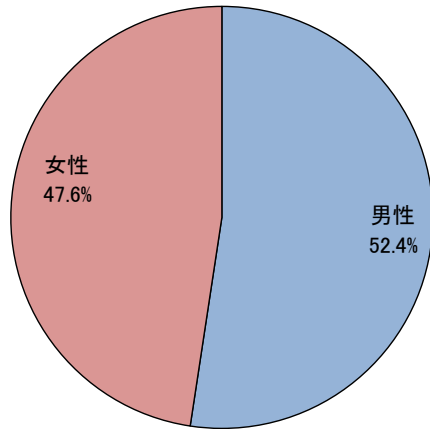
平成30年1月23日

調査の実施概況・回収結果

実施方法・回収結果

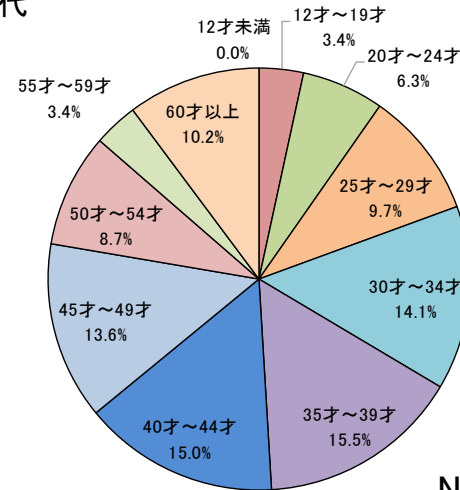
- WEBアンケートを活用し、本市居住者を除く九州各県居住者（15歳以上）のうち、過去1年以内に本市を観光目的で訪れた方を調査対象とした。
- 200票の目標に対して206票の回答があった。
- 回答者の性別は男女ともにほぼ同数で、年代は10代から60代以上まで分散している。

■ 性別



N=206

■ 年代



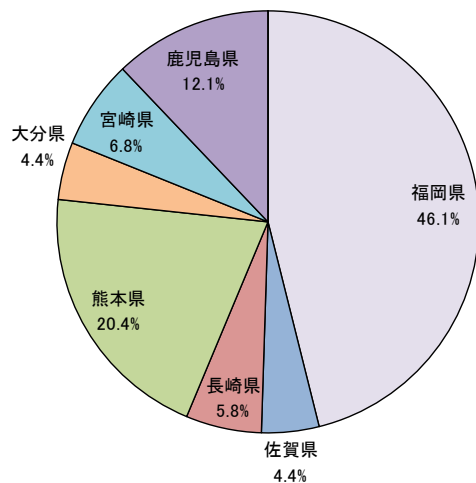
N=206

観光来訪者の移動実態

居住地と同行者

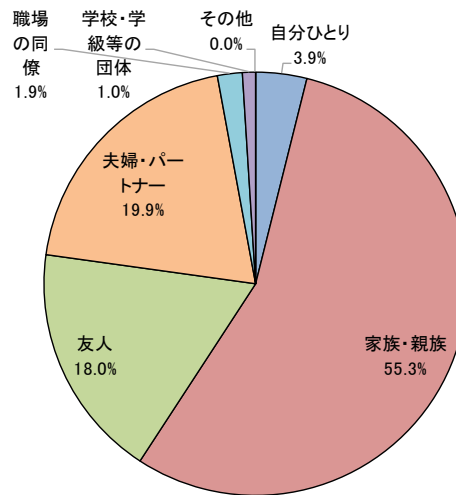
- 本市に観光目的で来訪する方は、約半数が福岡県、約2割が熊本県居住者となっている。鹿児島県居住者も1割強を占める。
- 観光来訪時の同行者については、半数以上が「家族・親族」と来訪しており、約4割が「友人」や「夫婦・パートナー」との来訪となっている。

■居住地



N=206

■同行者



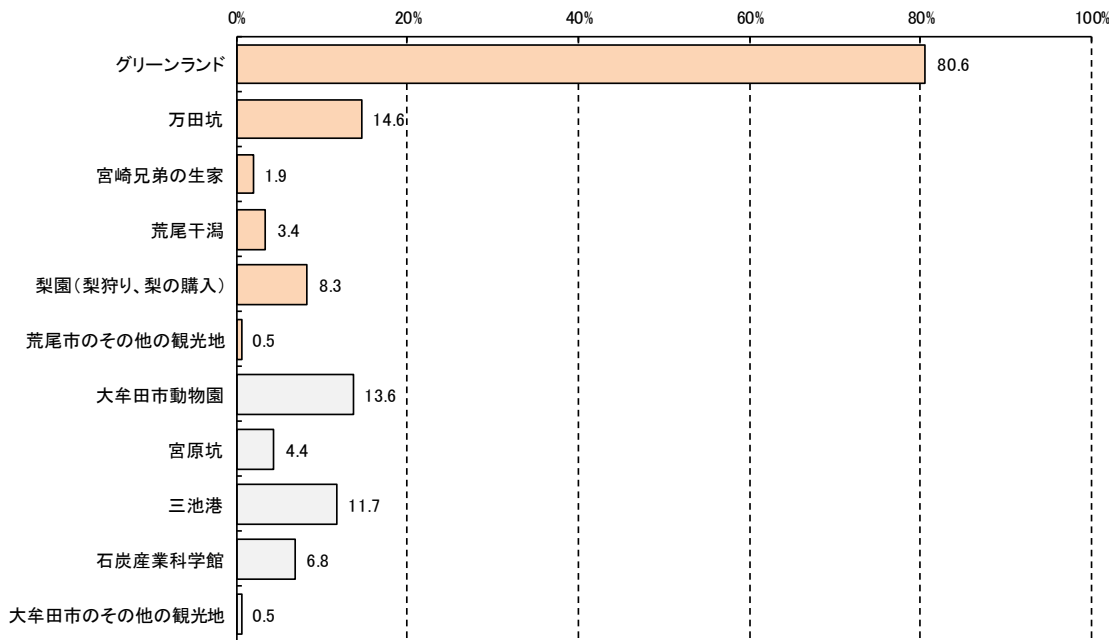
N=206

観光来訪者の移動実態

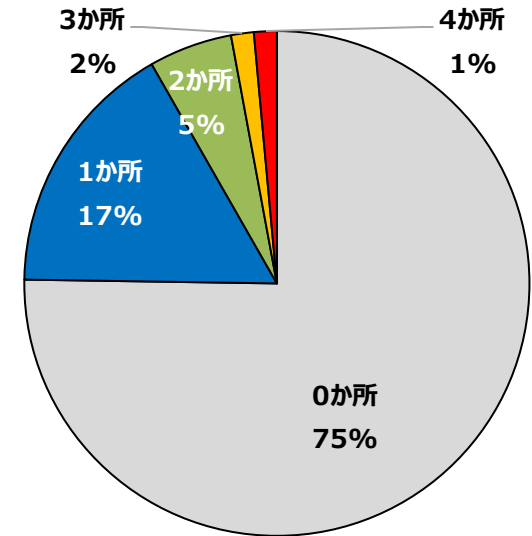
来訪地(本市・大牟田市)

- 過去1年以内に来訪した本市及び大牟田市内の観光地で最も多いのはグリーンランドであり、回答者の約8割が訪問している。一方、万田坑来訪者は約15%であり、隣接する大牟田市の観光地である大牟田市動物園や三池港と同程度となっている。
- 万田坑や宮原坑、石炭産業科学館などの世界遺産関連施設を観光周遊した方は回答者の1割に満たない。

■本市・大牟田市の観光来訪地



■世界遺産関連施設の周遊状況

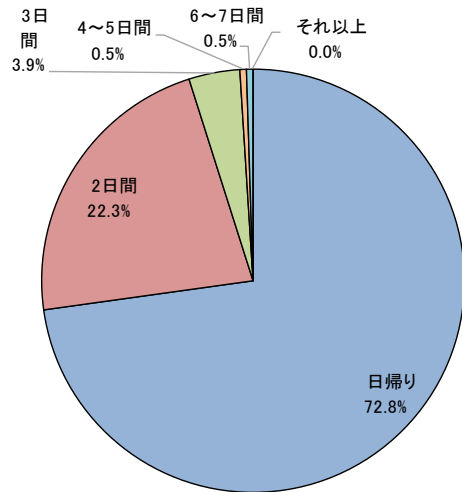


観光来訪者の移動実態

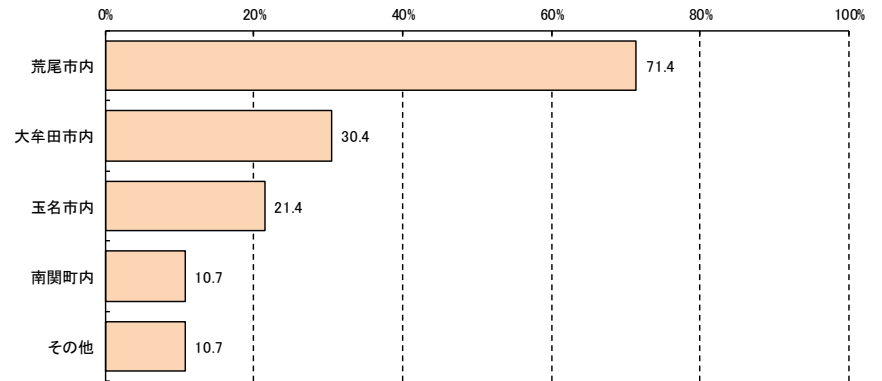
観光日数・宿泊地

- 本市に來訪する観光客の7割は日帰り客となっており、宿泊客は3割程度となっている。宿泊客の多くは1泊2日での來訪であり、3日間を超える観光客は少数である。
- また、宿泊客のうち7割は本市内で宿泊しており、大牟田市内や玉名市内での宿泊も2～3割存在する。

■観光日数



■宿泊地



※複数回答可のため、合計は100%とはならない

N=206

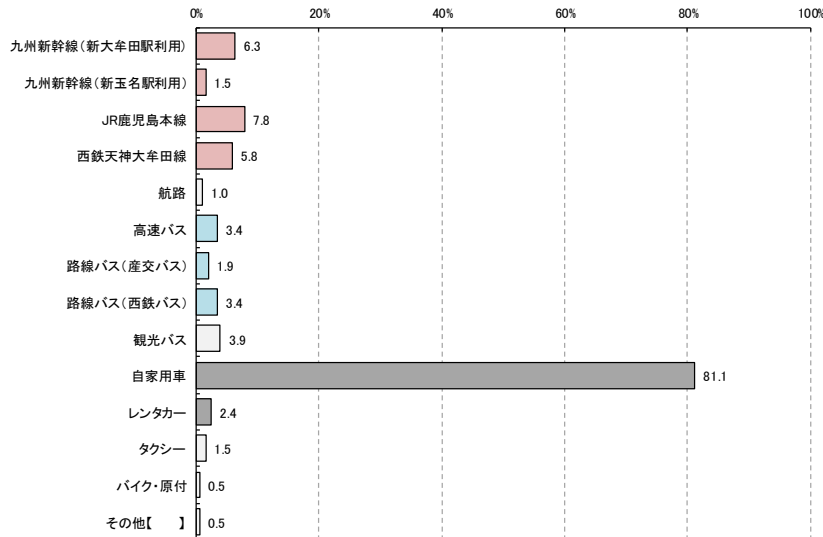
N=56

観光来訪者の移動実態

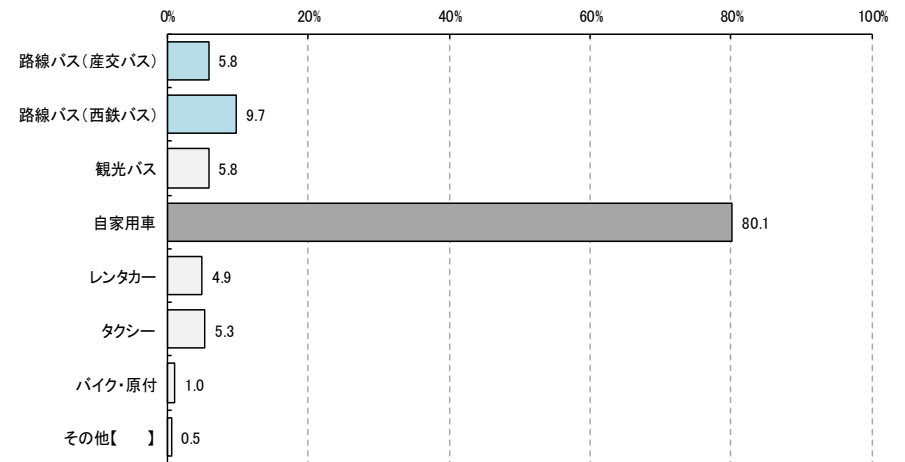
居住地から本市および本市内での移動手段

- 本市までの移動手段は8割以上が自家用車、レンタカーとなっているが、九州新幹線やJR鹿児島本線、西鉄天神大牟田線など、鉄道を利用した来訪者も、それぞれ1割弱存在する。なお、九州新幹線においては、新大牟田駅の利用が多くなっている。
- 本市到着後の移動手段は8割以上が自家用車、レンタカーであり、路線バスを利用する方は、西鉄バスが約1割、産交バスが6%程度となっている。

■居住地から本市までの移動手段



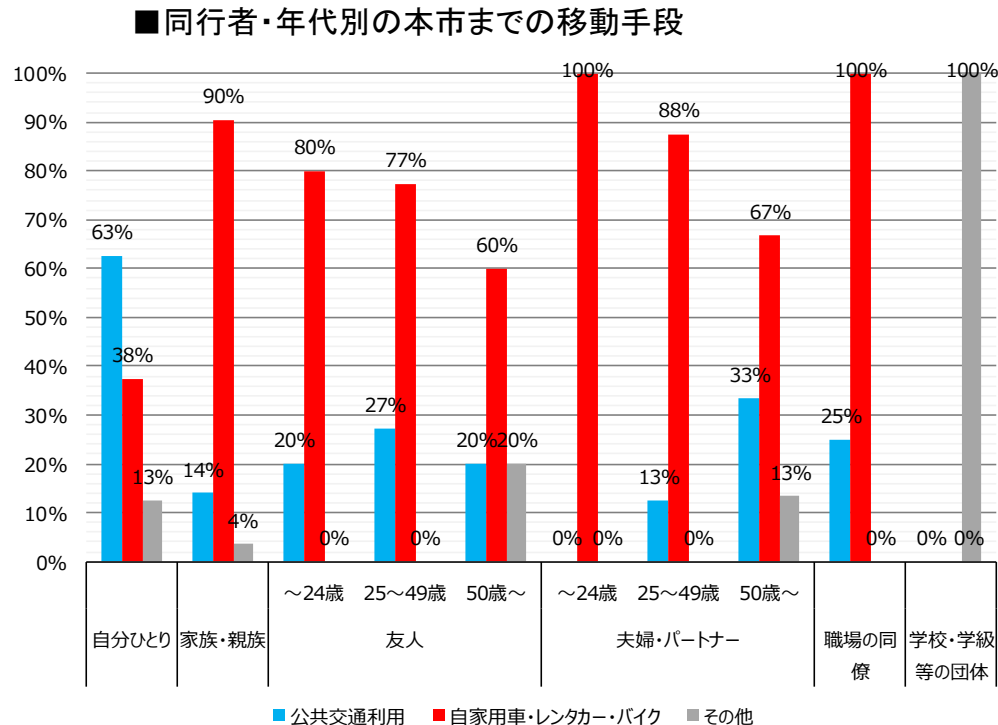
■本市内での移動手段



観光来訪者の移動実態

同行者・年代別の移動手段の特徴

- 同行者・年代別では、個人旅行をはじめ、50代以上の友人、50代以上の夫婦・パートナーとの旅行において、自家用車等の利用が少なく、比較的公共交通が利用されていることが分かる。特に、個人旅行においては、自家用車等の利用より、公共交通の利用の方が多くなっている。なお、家族・親族での旅行では、「自家用車・レンタカー・バイク」での来訪が9割を占める。

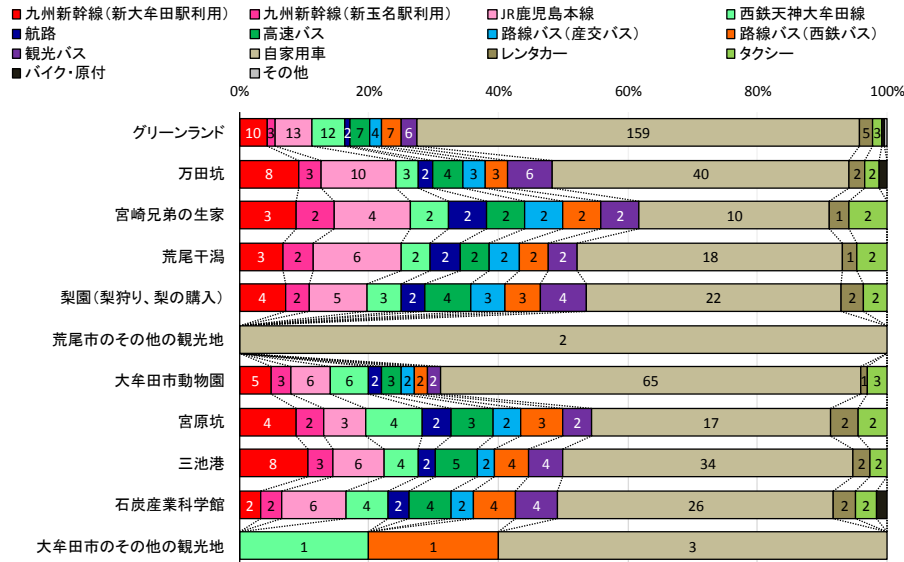


観光来訪者の移動実態

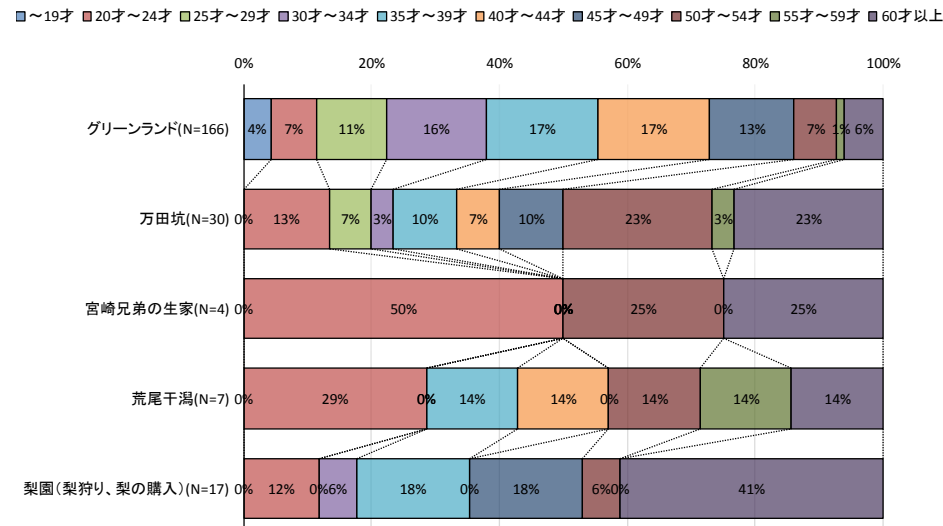
来訪地別の移動手段、年齢層

- 本市及び大牟田市の観光地への移動手段としては、グリーンランドや大牟田市動物園には「自家用車」の利用が半数以上を占めるが、万田坑等の世界遺産関連施設や宮崎兄弟の生家、荒尾干潟、梨園等の来訪者は、「九州新幹線」や「JR鹿児島本線」、「西鉄天神大牟田線」等、鉄道での来訪が約3割を占める。
- グリーンランド来訪者は他施設と比較して若年層の割合が高く、40歳以下の年代が半数以上を占めている。一方、万田坑来訪者は約半数が50歳以上であり、両施設では来訪する年齢層が異なっている。

■ 来訪地ごとの本市までの移動手段



■ 来訪地別の観光来訪者の年齢層

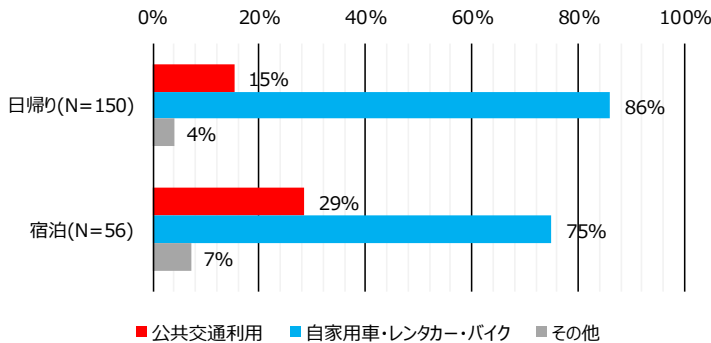


観光来訪者の移動実態

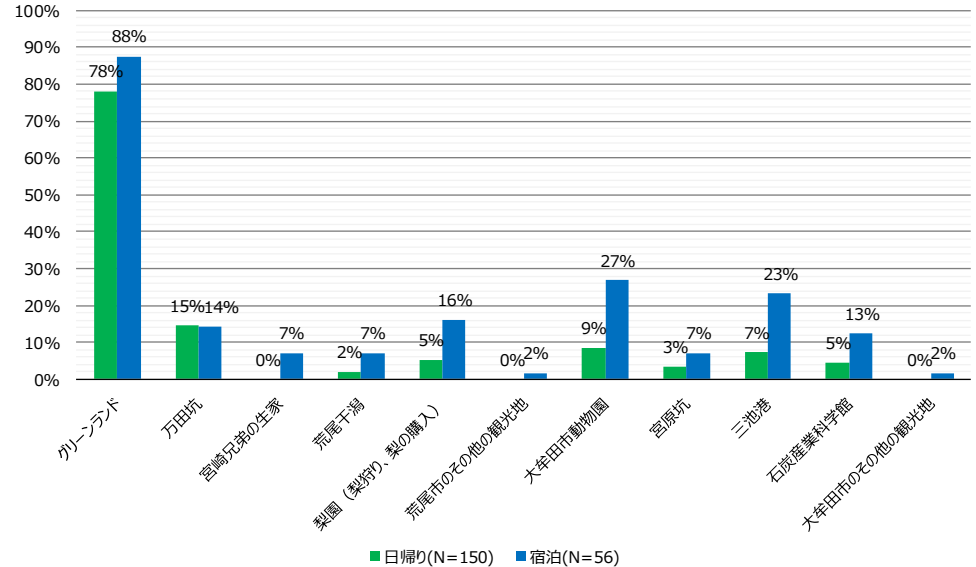
滞在日数ごとの周遊状況

- 日帰り客と宿泊客を比較すると、宿泊客の方が、公共交通利用率が高い傾向にあり、また、市内の観光地においても、グリーンランド、万田坑だけでなく、宮崎兄弟生家や荒尾干潟、梨園（梨狩り、梨の購入）、その他大牟田市内の観光施設など、複数の観光施設を周遊していることがうかがえる。

■ 日帰り・宿泊旅行者の移動手段



■ 日帰り・宿泊旅行者の観光来訪地

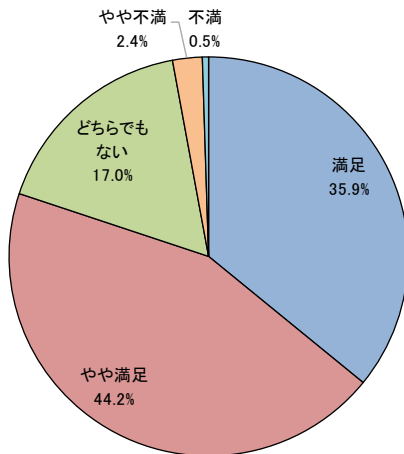


公共交通に対するニーズ

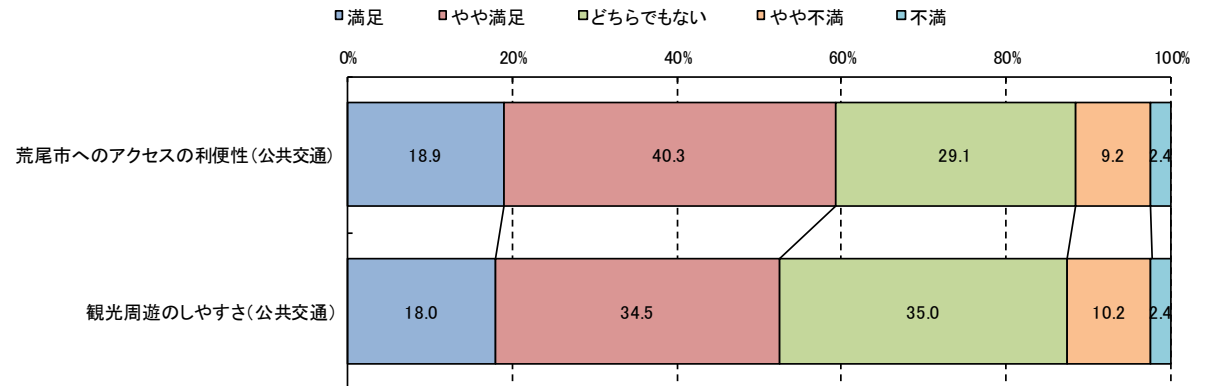
観光地としての魅力、来訪手段の満足度

- 本市の観光地としての魅力については約8割が満足・やや満足と回答しており、最も多くの観光客が来訪するグリーンランドを中心に観光地としての魅力は高いものと考えられる。
- 公共交通による本市へのアクセスの利便性、観光周遊のしやすさについても、半数以上が満足・やや満足と回答しており、やや不満・不満との回答は1割程度にとどまっている。

■本市の観光地としての魅力



■本市の観光地としての移動しやすさ

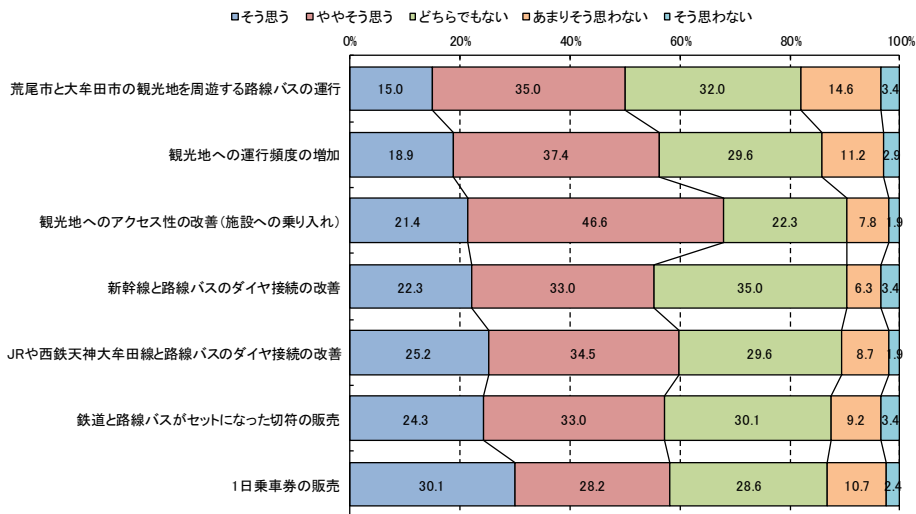


公共交通に対するニーズ

観光来訪者の公共交通に対するニーズ

- 公共交通に対するニーズとしては、「観光地へのアクセス性の改善(施設への乗り入れ)」が最も高く、約7割が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。
- 公共交通利用者と非利用者のニーズを比較すると、公共交通利用者の方が、「荒尾市と大牟田市の観光地を周遊する路線バスの運行」や「観光地への運行頻度の増加」「鉄道(新幹線・JR・西鉄天神大牟田線)と路線バスのダイヤ接続の改善」について、非利用者に対して特に要望が高い。
- 一方、公共交通への転換を図るための対策として、「そう思う」との回答に限定して分析すると、「1日乗車券の販売」や「JRや西鉄天神大牟田線と路線バスのダイヤ接続の改善」、「鉄道と路線バスがセットになった切符の販売」といった、乗継ぎの利便性向上に関するニーズが高かったため、施設への乗り入れなどの新たな路線の整備に限らず、現在の公共交通網を活かした利便性向上策も重要と考えられる。

■観光来訪者の公共交通サービスに対するニーズ



■観光日数・来訪箇所数別の公共交通ニーズ

